

国際果実年 野菜

食べる重要性知って

福岡県のJAみいは、国際果実野菜年の取り組みを広めようと、リーフレットを作成した。「国際果実野菜年2021」オフィシャルサポーター活動の一環として取り組む。

准組合員や地域住民、関係団体に1万部配布。野菜・果実を食べる重要性を伝える。国連は2021年を「国際果実野菜年」と定め、バランスの良い健康的な食事の重要性

福岡・JAみいリーフレット配布



冠水被害が出ている。国や行政へ支援などを要請し、組合員の農業経営の継続を支援するとともに、果実や野菜の重要性を幅広く発信し、消費を喚起していく」と語った。

「管内では8月中旬の豪雨により、露地やハウス栽培の葉物野菜で冠水被害が出ている。国や行政へ支援などを要請し、組合員の農業経営の継続を支援するとともに、果実や野菜の重要性を幅広く発信し、消費を喚起していく」と語った。

リーフレットには、国際果実野菜年が採択された目的や世界の現状を掲載。健康への関心を高め、取り組みについて理解を促す。JA管内が豊富な野菜産地である強みを生かし、管内で栽培されている珍しい野菜をクイズ形式で紹介。さまざまな野菜を知ってもらい、毎日の食生活に取り入れるよう促す。

平田浩則組合長は「管内では8月中旬の豪雨により、露地やハウス栽培の葉物野菜で冠水被害が出ている。国や行政へ支援などを要請し、組合員の農業経営の継続を支援するとともに、果実や野菜の重要性を幅広く発信し、消費を喚起していく」と語った。

(福岡・みい)

作成したリーフレット